

第26回人材開発国際大会に参加して

ポリテクセンター沖縄 竹井 三士*
(沖縄職業能力開発促進センター)

1. はじめに

国際人材開発機構（IFTDO）主催の大会である「第26回人材開発国際大会」が、平成9年10月27日から4日間の日程で、マレーシアのクアラルンプールにおいて開催された。世界39カ国、およそ800名の参加者があり、日本からも中央職業能力開発協会の企画で毎年参加していて、今年は各都道府県、民間の能力開発関係者17名が参加した。雇用促進事業団からは、島根職業能力開発短期大学校 尾藤俊和校長、北海道職業能力開発促進センター 山村泰弘所長、そして小生の3名であった。また分科会での日本からの報告者は、尾藤校長と日本労働研究機構 職業能力開発担当 牛尼清治副統括研究員の2名であった。

小生にとってこの大会参加が初めての海外出張であったために、日程の前半はかなり緊張した。しかし、参加するなかで、緊張よりも「これからの人材育成はこうあるべき」と痛感し、「今後の業務展開に生かす」と強く決意した大会であった。

2. 大会の全体構成

第1日

大会参加登録

大会オリエンテーション

ウェルカムパーティ

第2日

総括基調講演 メインテーマ

「人材開発全体の新しい枠組み」

Dr Jagdish Parrikh

基調講演 テーマ A

「グローバル化、グローバル化の意義」

Charles Hampden-Turner

基調講演 テーマ B

「人類の可能性」

Danah Zohar

サブテーマについての講演

12講師 12会場 同時講演

サブ・サブテーマについての講演

15講師 15会場 同時講演

第3日

基調講演 テーマ C

「人材開発その技術と質」

A William Wiggenhorn

基調講演 テーマ D

「最近の学習環境の近代化状況」

Tan Sri Dato' Othaman Yeop Abdullah

パネルディスカッション

サブテーマについての講演

12講師 12会場 同時講演

サブ・サブテーマについての講演

15講師 15会場 同時講演

* 現雇用促進事業団職業能力開発指導部

(日本からの講演)サブテーマについての講演

C・1 「日本における職業訓練の経過と現状」

D・4 「高度情報化の進展と人材育成の新たなアプローチ」

夜 インターナショナル・ディナーパーティ

第4日

サブ・サブテーマについての講演

30講師 30会場 同時講演

サブテーマの総括(パネルディスカッション方式)

クロージングセレモニー

次回開催内容の概要

3. 基調講演

講演において一貫して流れてる考え方は、「優れた人材を育成するために、いかに優れたリーダーを作り出すか」であった。

リーダーは、「理念・インスピレーション・不変的エネルギーを持っている」「ねばり強く、スピードを持って対応できる」「部下の潜在能力を発見・開発できる」「ビジョンを描いて仕事ができる」「仕事に関するバランス感覚を持っていて、良い人間関係を作れる」

このような資質を持つことが必要であると強調された。

また、常に目的意識・ビジョンを持ち「何を求め、何ができるか」を自問自答し、戦略・戦術を明確にして行動すべきであるとして、「いま必要なことは変革(自己改革・組織改革)に立ち向かう最大の勇氣ある行動である」と結んだ最後の言葉は特に印象に残った。

4. サブテーマ

基調講演 A, B, C, D, では「企業の海外進出・国際化・市場開放・自由貿易が目前に迫ってき

た今、西洋・東洋の文化を認識・尊重し、信頼関係を構築することが重要である」と前置きした。

さらに、いま求められている人材は、「脳のシナプスを再配線できる、強いリーダーシップを持つ人材」「コスト意識のある人材」「どの国でも対応できる人材」「マルチメディアに対応した創造性のある人材」「グローバルな視野での人材」の育成が急務である…。

との報告がなされた。

5. 日本からの報告

(1) 「日本における職業訓練の経過と現状」(90分)

尾藤 俊和 島根職業能力開発短期大学校長

「要旨」

- ・日本における職業訓練近史と最近の産業経済を背景とした職業能力開発の対応
- ・職業能力開発体系図について(英字版体系図雇用促進事業団職業能力開発指導部作成)

「質問・反響等」

- ・学校制度と職業訓練制度の関係がよく理解できない?
- ・アプレントイスシップとON THE JOB TRAININGの違いは?
- ・日本の教育訓練に対する興味と、情報がほしいとの要望があった。



尾藤氏報告風景



牛尼氏報告風景

(2) 「高度情報化の進展と人材育成の新たなアプローチ」(90分)

牛尼 清治 日本労働研究機構 職業能力開発研究担当 副統括研究員

「要旨」

- ・各国における情報通信基盤の構築状況
- ・日本における整備状況と大学校や専門学校での教育カリキュラムおよび教育ビジョンの紹介
- 「質問・反響等」
- ・日本の財政危機下における高度情報化計画の中で、公共と民間の投資投下割合は？
- ・マレーシアとの違いは？
- ・日本人はマルチメディアに対しどう感じているか？

2つの講演が同時並行であったが両講演とも30～40名の出席者がいて、講演後の質疑応答も活発になされていた。

6. 大会所感

基調報告に対する参加者の質疑で「毎年、すばらしい報告がなされているが、成果についての報告が

ない。誰が実践するの...？」とあった。

事務局から「実践するのは皆さんだ、その結果について今後の大会で報告してほしい」と答弁していた。

大会基調および全体を通しての内容から考えるとき、雇用促進事業団が、全国的に「職業能力開発体系図」を活用しての人材育成・人材開発に積極的に取り組んでいることの重要性・緊急性がいっそう明確になったことを強く感じた。「職業能力開発体系図」については日本からの報告の中で尾藤校長が真新しいパンフレット「英字版体系図」を使って説明されたが、時間が足りず簡単な内容になった。2～3年後、この大会に参加する人は、国際大会の中で「職業能力開発体系図」を活用しての人材育成・開発好事例として世界にアピールしてほしいものだ。

この大会参加の中で、気後れしたことはただ1つ、日本人だけが同時通訳のイヤホンをつけていたことだ。それはまた、自由化が進む中、「自らのグローバル化に向けた能力開発の必要性」を痛感し、能力開発に携わるものとして「責任を持って自己啓発を進めること」の重大な意義をかみしめた海外研修でもあった。

旅行中の全行程において、アテンド、ガイド、フォローと手抜きなくお世話をいただいた中央職業能力開発協会の事務局、および大会中参加者が快適に各セッションにコンタクトできるようアレンジしていただいたり、ランチブレイクやコーヒブレイクを適度に配し、疲れないよう十分な配慮をいただいたIFTDO大会実行委員会には感謝の意を表したい。

また、大会に参加し海外での実践的な研修の機会を与えていただいた雇用促進事業団には感謝するとともに、今後も継続して事業団職員を派遣されるよう提言したい。